

ルース・マッケンジー

ロンドン 2012 カルチュラル・オリンピアド ディレクター
 ロンドン 2012 フェスティバル キュレーター
 ホランド・フェスティバル芸術監督
 ザ・スペース ディレクター

ロンドン 2012 カルチュラル・オリンピアド ディレクターおよびロンドン 2012 フェスティバル キュレーター。25,000 人のアーティスト、2,000 万人以上の観客が参加した英国史上最大規模のアートフェスティバル、ロンドン 2012 フェスティバルを成功に導いた。現在アムステルダムで国際的に著名な芸術祭、ホランド・フェスティバルの芸術監督を務めるほか、英国 BBC とアーツカウンシルによる新しいオンライン・プラットフォーム、ザ・スペースのディレクターも兼任。過去には、マンチェスター国際フェスティバルやスコティッシュ・オペラのジェネラル・ディレクター、チチェスター・フェスティバル・シアター芸術監督、ノッティンガム・プレイハウスのエグゼクティブ・ディレクター、サウス・バンク・センターの戦略企画部門長などを歴任。現在ウィーン・フェスティバル、BBC、テート、ロンドン交響楽団、ブリティッシュ・フィルム・インスティテュートなどのコンサルタントや、英国文化メディアスポーツ省の 5 人の大臣のアドバイザーも務めており、BBC やアーツ・カウンシル・イングランド、インペリアル・ウォー・ミュージアム、ブリティッシュ・カウンシルとのプロジェクトにも携わっている。


モイラ・シンクレア

アーツカウンシル・イングランド
 エグゼクティブ・ディレクター（ロンドンおよび南東地域担当）

アーツカウンシル・イングランドのエグゼクティブ・ディレクターとしてロンドンおよび南東地域を担当し、この地域で助成を受ける 322 のアート団体の活動や運営状況などを統括。また、アーツカウンシル・イングランドのボード・メンバーとしてイングランド全体の政策策定に携わり、特に文化セクターの成長と人材育成を担当。2012 年のロンドン・オリンピック・パラリンピック競技大会に大きく貢献し、現在もその成果を今後につなげていくレガシー・プログラムを担当している。マンチェスター大学で演劇を学んだ後、地方自治体やパフォーミング・アーツなどの仕事に携わり、その後、病院患者などを対象にアートプログラムを実施するバイタル・アーツのディレクターを経て、2005 年よりアーツカウンシル・イングランドに所属。2004 年度には、英国の文化セクターで今後の活動が期待される人材を対象としたクロア・リーダーシップ・プログラムに参加。現在、障害をもつ人々やホームレスの人々などをサポートする団体リック・アヘッド・ソーシャル・ケア・アンド・ハウジングの活動にも副理事として関わっている。


ジャスティーン・サイモンズ

ロンドン市文化部長

11 年間ロンドン市長の文化部長を務め、現在は文化担当の副市長代理も兼任。ロンドン市長の文化戦略の責任者として、映像・ファッション・デザイン分野といったクリエイティブ産業への投資プログラムを主導している。ロンドン市が関わる音楽、演劇、国際文化交流、視覚美術、文化政策、パブリックアートといった事業を統括するほか、ロンドン市長が推進するトラファルガー広場を舞台にしたパブリックアートプロジェクト「フォース・プリンス（四番目の台座）」のディレクターも務める。2012 年のロンドン・オリンピック・パラリンピック競技大会では、ロンドン市の責任者として、またロンドン・フェスティバル 2012 のアソシエート・クリエイティブ・プロデューサーとして、文化プログラムの企画から実現まで中心的な役割を果たした。また、文化と都市の未来を世界規模で考えるワールド・シティーズ・カルチャー・フォーラムも立ち上げ、人々の生活や政治における文化の重要性を訴求している。現職に就く前は、コンテンポラリー・ダンス分野でいくつかの主要な劇場で 10 年間働いた。現在はテムズ・フェスティバル、英国フィルム・コミッション、ロンドン・デザイン・フェスティバル、ブリティッシュ・ファッション・カウンシルなどでボード・メンバーを務めるほか、ビッグ・ダンスの理事長でもある。

